

社会全体の幸福 探る

弘大「ウェルビーイング」開所

来春本格稼働 心身の健康サポート

弘前大学は12日、弘前市の本町キャンパスに整備した「グローバルWell-being(ウェルビーイング)総合研究所」の開所式を行った。関係者は、心身の健康や社会全体の幸福の実現を目指すウェルビーイング研究が、研究所を拠点に一層進むことに期待を寄せた。

(菊合賢)

弘大は2024年度、文一色ある研究大学強化促進事
部科学省の「地域中核・特一業(J-PEAKS)」に



開所を祝いテープカットするカワチ氏(左から2人目)、福田学長(同3人目)ら

採択され、研究の中核拠点整備を進めてきた。研究所では、岩木健康増進プロジェクトで蓄積した健康ビッグデータの解析や、新たなQOL健診の開発を推進。研究成果を国内外へ広く発信し地域活性化につなげる。来年春、本格稼働する。

式典には県内外の大学関係者、共同研究を行う民間企業関係者ら約100人が出席。福田眞作学長が「国内外の知を結集し研究成果を社会に還元し、地域に貢献したい」とあいさつ。石橋恭之・総合研究所長は「広い視野で社会課題の解決に取り組む」と意気込みを語った。式典後、記念シンポジウムが文京キャンパスの創立50周年記念会館で行われ、同研究所の最高顧問に就任した米ハーバード公衆衛生大学院教授のイチロー・カ

ワチ氏が、社会全体の幸福度を高めるためには、所得格差を縮小することが鍵を握る」と説明。「人と人とのつながりや助け合い、精神的なサポートをより強くすることも重要だ」とも語った。

千葉大学の近藤克則名誉教授は、社会参加や交流を生み出す街づくりを通じたウェルビーイング実現の必要性を語った。東京科学大の藤原武男教授は、不確実な時代に生きる子どもたちのウェルビーイングについて意見を述べた。シンポには約200人が参加し、オンラインで約500人が視聴した。